

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

2025 年 6 月 17 日

明石市長 殿

提出者

住所 大阪市都島区片町2-2-40大発ビル

氏名 日本エコロジー株式会社
代表取締役社長 牧田 徹也

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 06-6881-0251

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称 日本エコロジー株式会社 明石工場

事業場の所在地 明石市二見町南二見22-19

計画期間 2025年4月1日から2026年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類

その他有機化学工業製品製造業 (1639)

②事業の規模

3億円

③従業員数

14名

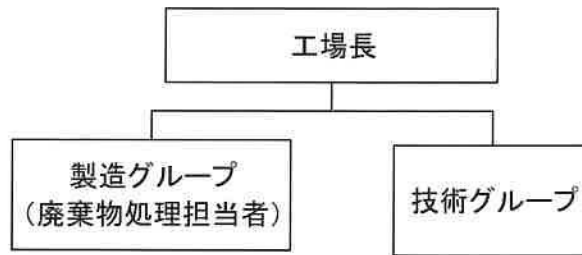
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程

廃酸発生
(pH2.0以下)岸和田工場にて
自社処理
(中和無害化)大阪沖
埋め立て処分場引火性廃油発生
(燃えやすい廃油)処分委託
(混合調整、燃料
化)住友大阪セメント
にて最終処分廃アルカリ
発生
(pH12.5以上)処分委託
(混合中和)

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	排出量	162 t	69 t
	(これまでに実施した取組) ・ 特になし (※第2面-2参照)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	排出量	323 t	137 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 取り扱い品目の増加に伴い増加の見込み。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 強酸：指定タンクに貯蔵することで他の廃棄物と分別している。 ・ 引火性廃油：ドラム缶に受け入れ後指定ラベルの貼付により分別している。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 現状予定なし。

(第2面-2)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

第2面と同じ

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	排出量	8 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・ 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	排出量	15 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 取り扱い品目の増加に伴い増加の見込み。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 強アルカリ：指定コンテナまたはドラム缶に受け入れ後、指定ラベルの貼付により分別している。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 現状予定なし。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・ 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） ・ 特になし		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	161 t	0 t
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	322 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） ・ 関連する溶剤の受託増に伴い増加予定。		

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・ 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） ・ 特になし		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
②計画	（今後実施する予定の取組） ・ 特になし		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	自ら埋立処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・特になし （※第4面-2参照）		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） ・特になし		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2024年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	全処理委託量	1 t	69 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	69 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	69 t
	（これまでに実施した取組） ・できるだけ優良認定処理業者から選定する。		

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	自ら埋立処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・ 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 特になし		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2024 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	全処理委託量	8 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	8 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	8 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・ できるだけ優良認定処理業者から選定する。		

(第5面)

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	7000 引火性廃油
	全処理委託量	2 t	138 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	138 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	138 t
	(今後実施する予定の取組) (※第5面-2参照)		
	・引き続きできるだけ優良認定処理業者から選定する。		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（ 2024 年度実績）】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	238	t
	(今後実施する予定の取組) ・2020年4月8日より電子マニフェストの使用を開始しています。		
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7200 強アルカリ	
	全処理委託量	15 t	0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	15 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	15 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・引き続きできるだけ優良認定処理業者から選定する。		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度（ 2024 年度実績】		
	特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	第5面と同じ t	
	(今後実施する予定の取組) ・第5面と同じ		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。